

法音

日蓮宗

法音寺

今月のご法話

悲しみを抱きしめて生きる

令和8年

2月号

No.676



＝信仰の指針＝

だい
ひ

大悲

深い慈しみの心を

持ちましょう

因教五





朝のこない夜はない

山首 鈴木正修

悲しみを抱きしめて生きる

かな

だ

頓智で有名な一休さんの話です。

ある時、お金持ちの商人が一休さんに「初孫ができてめでたいから、一つ書を揮毫してほしい」と頼みました。

一休さんは「親死ぬ。子死ぬ。孫死ぬ」と書きました。

商人が「このめでたい時に縁起でもない」と言つと、一休さんはこう答えました。

「何を言つんじや。年を取つた者から順番に死んでいく。

こんなめでたいことはないし、こんなありがたいことはないぞ。可愛い子どもや孫が先に死んだら、どれほど悲しいことか

子や孫が先に亡くなることを「逆縁」と言いますが、確かにこれほど悲しいことはありません。一休さんの言われ



る通りどおりです。

『ナイチンゲールが説いた悲しみの共感』

近代看護制度を築いたフローレンス・ナイチンゲールは、クリミア戦争に従軍し、敵味方を問わず野戦病院で看護にあたりました。その慈悲深い行いから「ランプを持った天使」と呼ばれました。彼女の尽力によって看護制度が整えられ、看護学校も設立されました。

その看護学校で、若い独身の看護師達にナイチンゲールはこう語りました。

「看護師になつたら、あなた達が経験したことのないような悲しみや苦しみを理解し、共感しなければいけません。例えば、子どもを亡くした母親の気持ちです。それができなければ看護師になる資格はありません」

慈悲の大切さを説いた話です。



《助産師・内田美智子さんが見た母の愛》

助産師・内田美智子さんが見た母の愛》
以上
以上の赤ちゃんを取り上げた方です。その著書に、「お産はおめでたいことばかりではないんです。死産などの悲しきごともあるのです」と書かれています。

「ある妊婦さんの話です。妊娠10ヶ月に入った頃、胎動がなくなりました。診察の結果、胎児が亡くなっていることがわかりました。しかし、産まなければなりません。普通、お産の時、『頑張つてね。もうすぐ元気な赤ちゃんに会えるからね』と励ますが、死産の時にはかける言葉がありません。分娩室では泣かない赤ちゃんの代わりに、母親の泣き声が響き渡りました。分娩の後、そのお母さんは『一晩だけでもこの子を抱いて寝たいのです』と言いました。私が真夜中にその病室を見回りに行くと、お母さんはベッドに座つて、赤ちゃんを抱いていました。『大丈夫で



すか?』と声をかけると『今、お乳ちちをあげていたんですよ』
と言いました。乳首ちくびからにじみ出でてくる乳ちちを指ゆびにつけ、赤あか
ちゃんの口元くちもとに移うつしていていたのです』
『その姿すがたを見て、内田さんはそつと近づちかき、肩かたにやさしく
手てを置おいたといいます。』

内田さんは言いわれます。

『どんなにその子におっぱいを飲のませたかなことか。泣な
かない子こでも、その子の母親ははおやでありたいと思おもうのが母親ははおや
な
んなです』

ナイチンゲールは、内田さんのような看護師かんごしを育そだてたか
つたのであろうと思おもいます。

『涙なみだを流ながすことは大切な営み』
私は毎月まいつき『致知ちち』という雑誌ざっしを購読こうどくしています。ある号ごう
に『涙なみだを流ながす』という特集とくしゅうがあり、子どもを亡なくされた三



人のお母さんの話が載つていました。その中の一人、結星
蓉子さんの話を紹介します。私も読みながら泣いてしまい
ました。

蓉子さんは娘の里紗ちゃんを8歳で亡くしました。亡くなつてから23年が経ち、今は同じように悲しみ、苦しんで
いる人を励ますカウンセラー・コーチをしています。

1993年6月23日、蓉子さんが24歳の時に里紗ちゃん
を出産しました。切迫早産で未熟児でした。生後1ヶ月を
過ぎた頃から、泣いただけで顔が紫色になつたり、足がすぐ
にパンパンに腫れたりと、『何かおかしい』と感じたそ
うです。

近所の小児科病院では血液検査も心音も「異常なし」と
言われました。しかし、母親の第六感で『大きな病院に行
つた方がいい』と思いい、東京の大きな病院で診察を受け直
しました。しかし原因がわからず、生後二ヶ月から一年三



力月間、検査入院しました。発育が遅く、医師も違和感を覚えていたようですが、原因は特定できないまま退院しました。

里紗ちゃんは2歳になる頃、突然髪の毛も眉毛もすべて抜けてしましました。蓉子さんは「そのうち治るかもしれない」と思つていましたが、ほどなくして医師から「プロジエリアという病気です。長くは生きられません。現代では治療法もありません」と告げられました。

プロジェクトエリアとは800万人に一人という稀な病気で、健常者の十倍の速さで老化が進む病気です。

宣告を受けた蓉子さんは「私は怖くなりました。いずれ娘を見送らなければならぬ。その時がいつ来るかわからぬという未来への恐怖です。さらに過去への後悔も湧いてきました。妊娠中に悪いことをしたのではないけど、私は自分を責めてしましました」と語っています。



そんな蓉子さんをよそに、里紗ちゃんは言葉を覚え、何
気ない会話が楽しくできるようになりました。しかし、普
通ならうれしい誕生日が、祝うたびに死が近づくようで複
雑な思いでした。体が弱く、点滴をするたびに泣き叫ぶ里
紗ちゃんを見て、『健康に産んであげられなくてごめんね』
という思いで胸が締めつけられました。

やがて蓉子さんはうつ病を発症し、『数年後に里紗は死
んでしまう。その後、生きていく自信がない。いつそ今み
んなで死んでしまおう』という一家心中の考えまで浮かび
ました。

しかし、うつ症状が出て三ヶ月ほど経った頃、里紗ちゃん
が無邪気な笑顔で「ママ元気出して、一緒に遊ぼうよ」
と言ったのです。その言葉で蓉子さんは気づきました。
『今この子は笑っている。今この子は楽しそうに遊んでい
る。今を精いっぱい生きているんだ。この「今」を大切に



しなければ、この子を幸せにすることはできない。過去を悔やむのでも、未来を恐れるのでもなく、今を積み重ねて生きていくこと

里紗ちゃんは知能や感覚は全く普通でしたが、関節や皮膚が硬く、床に座るのもひと苦労でしたので、蓉子さんは常に気を遣つていました。特に気を遣つたのが髪の毛のことでした。いじめられないようにウイッグ（かつら）を被せていました。

しかし、「今」に気づいてから、蓉子さんは里紗ちゃんの気持ちを聞いて、できるだけ健常な子と同じようにやりたいことをやらせようと決めました。

幼稚園に上がる時、先生が「ウイッグをやめて帽子で通つてみない?」と言うと、里紗ちゃんは即座に「うん、帽子でいい」と答えました。それ以来、ウイッグなしで運動会でも芋掘りでも英会話でも、何でも挑戦しました。



小学校入学の時には「ママ、これからどんなことがあつても里紗は頑張るからね。ママも頑張ろうね」という手紙てがみをくれました。入学時の身長は90センチ。平均より30センチ低い小さな体でした。

蓉子さんの好きなバンドのライブに連れて行く時、蓉子さんが「ウイッグに色をつけて被つていこうか」と言うと、里紗ちゃんは強い口調で「つけないよ。だつて本当の里紗じゃなくなるから」と言いました。蓉子さんは「この子は私が思う以上に自分の運命を受け入れている」と感じ、自分が恥ずかしくなつたといいます。この日以来、蓉子さんは「この子に学ばせてもらつている」という思いが強くなつたそうです。

仕事がうまくいかず悩んでいた時、里紗ちゃんは「ママ、何かあつたの?本当に困つた時は里紗が助けてあげるからね」と大人のように言つたそうです。



2年生になると、二人でピアノの連弾の発表会にも出ました。しかし、小学3年生になる年の2月、ご主人が留守番で蓉子さんが仕事を出かけた日、里紗ちゃんが「ママ、夕ご飯は一緒に食べようね。行つてらっしゃい」と見送りました。それが最後の会話になつたのです。友達と家の前の公園で遊んでいる時に倒れ、千葉大学病院に救急搬送されて七時間に及ぶ処置の末、息を引き取りました。8歳8ヶ月でした。蓉子さんが33歳の時です。

亡くなつた時も、葬儀の時も、蓉子さんは大声で泣けませんでした。里紗の方が苦しいのに、自分が悲しいなんて思つてはいけない、とずっと感情に蓋をしてきました。その後も『里紗の分も頑張らなければ』と精神安定剤や睡眠薬を飲みながら働き続け、やがて体を壊し、フォーカルジストニアという病気で右手が動かなくなり、心臓にも問題が生じてベースメーカーを入れることになりました。そ



んな時、病院のベッドで『生きているだけでいい。無理しなくていいんだ』という思いが込み上げてきたそうです。

45歳の時、あるセミナーで講師が「辛かつた、苦しかつたという気持ちを否定しないで、認めてあげていいのです」と語りました。その瞬間、蓉子さんは涙があふれました。

蓉子さんは言われます。

「娘との別れから十二年、抑え込んでいた感情と初めて向き合えました。弱い自分を受け入れたこの日を境に人生が大きく変わりました」

「今を大切に輝かせれば、過去も未来も輝く。そのためにも涙を流すことは大切な営みなんです。泣きたい時というのは心が泣くことを求めている時です。人前で泣けないなら一人で泣いたらい。涙を流すことは決して弱さでも敗北でもありません」



悲しみは悟りへの道

ほかにも二人のお母さんのお母さんのお母さんが紹介されていました。その一人が本郷由美子さんです。大阪教育大学附属池田小学校で8人の児童が殺害された事件で、娘さんを亡くされました。この方も今、人生の苦しみや悲しみを抱える人達に寄り添う活動をしています。本郷さんは言われます。

「私は『悲しみを乗り越える』という言葉を使わないんです。悲しみは、現在進行形です。『乗り切ることはできても乗り越えることはできない』と実感しているからです。『悲しみの根源には愛情と愛着がある』という言葉がありますけど、悲しんで哀しんで悲しみ尽くし、自分なりに折り合いくつけると悲しみの根源にある愛に気がつき、いつしか悲しみの涙の質が変わってきて、安らぎを得た温かい涙として流れてくるようになります。悲しみと向き合うこ



とで心が成長し、成熟できるようです。悲しみは人間にとつて大切なものです。私はこれからも悲しみを愛おしきものとして抱き締めて歩いていきたいと思っています」

本郷さんの対談相手の元聖心女子大学教授でシスターの

鈴木秀子さんが大変蘊蓄のある話をしておられます。少し

長いですが引用させていただきます。

「私はこれまで多くの苦しみや悲しみに接してきましたけど、一番辛いのは我が子が自殺してしまったことです。

本郷さんの場合は、外からの力で悲しい結果が起こってしまいましたが、これが自分のせいで子どもが自殺したとなるとなかなか拭い難いんです。ある医学部5年生の女の子は、母親が立派な医者になるようにあまりに強く言つたもので、最後はやりきれなくなつて首を括つて亡くなつてしましました。彼女はお母さんと二人暮らしてから、母親は『自分のせいでおなせてしまつた』という自責の念と、



娘を失った悲しみから長い間抜け出せなかつたんですね。

もう一人は水泳の女子選手で、明日が予選でオリンピック出場が決まるかどうかという前の夜に、飛び降り自殺をしました。この子の場合も母親からの『頑張れ、頑張れ』というプレッシャーに耐えられなくなつたのですが、我が子を失った母親の悲しみや苦しみはやはり言葉では言い尽くせないものがありました。このような時に、何がその人にとつての救いになるかというと、いろいろ人のさりげない優しさなんです。母親は自分が大切だとと思うことを我が子に伝えようとした。だから自分を責める必要はない。そういうふうに周りの人達が助け、自分を許すことができると、『ああ、娘はあの年まで自分の人生を頑張つて生き通せたんだ』と死を受け入れられるようになるんですね。そして、天国の娘が喜ぶような生き方をしようと、人生が大きく転換していくんですね。そして、『今度は苦しんでいる



人達のため自分にできることを『 』という気持ちになつた時、二歩も三歩も前進しているんです。自分や誰かを責め続けているうちは事態は変わりません。私達の人生で起きる出来事は、善い・悪いと簡単には判断できません。結局はそれをどのように捉え、どのように生かすか、そこに悲しみに向き合い、越えていくポイントがあるよう思います

」
結星さんも本郷さんも、鈴木さんの言われる二歩も三歩も前進した人だと思います。

法華經・如來壽量品に「常懷悲感 心遂醒悟（常に悲感を懷いて、心遂に醒悟す）」という有名な一節があります。この寿量品には「良医治子」の譬えが説かれていて、毒（貪・瞋・痴）を飲んだ子ども達（衆生）に薬（法華經・お題目）を飲ませようとする医師（仏さま）の話です。



ほんしん うしな
本心を失つてしまつた子ども達は薬を飲もうとしません。

そこで医師は方便として人を遣わせて「お父さんは遠くへ行つて死んでしまつた」と伝えさせます。それを聞いた子ども達は父の死を悲しみ、その悲しみによつて心が目覚め、

薬を飲みます。

お釈迦さまは説かれています。

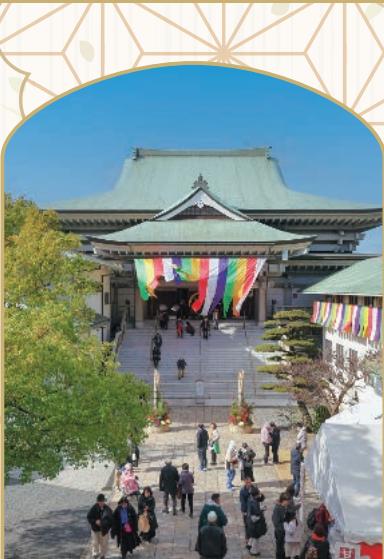
「深い悲しみを抱き続けることによつて人は覚醒し、悟りに近づくのである」と。



令和8年

【新年祝祷会】









大乗山法音寺 令和8年

節分会

(開運厄除け祈願)



節分とはなぜ節分というのでしょうか？鬼はなぜ角があつてトラのパンツ（ふんどし）なのでしょうか？知っているようで知らない節分を説明しています。

YouTubeで学ぼう /



詳しくは、各支院・布教所までお問い合わせください。

※法音寺では、厄年に関係なく、どなたでもお申込みできます。
駐車場には限りがありますので、公共交通機関を利用してお越しください。



今月の山首上人さまご親修日程

大阪支院 2月8日(日)

東京支院 2月11日(祝)

岡山支院 2月14日(土)

福山支院 2月15日(日)

上野支院 2月21日(土)

良い教えの話を聞きましょう。
全国の法音寺各支院・布教所では
毎月の講日の中で三徳の教えを
聞くことができます。
是非講日にご参詣いただき
教えを心にしみ込ませましょう。

有縁の支院・布教所に、ご自由にご参詣ください

支院・布教所名	今月の講話日など	住所	電話番号
大乗山泰明寺	5日・20日	名古屋市中村区名駅2-1-37-1-3	052-581-2069
開基堂	10日	江南市寄木町天道18	0587-53-5436
東京支院	11日・21日	東京都練馬区谷原2-1-6-1-37	03-3904-11251
静岡支院	2日・12日・22日	磐田市城之崎4-1-7-3	0538-32-1-6625
豊川支院	20日	豊川市中野川町1-1-26-3	0533-86-1-4704
安城支院	8日・18日・28日	安城市新田町小山31-25	0566-76-1-2504
明川支院	11日・28日	豊田市明川町堂ノ脇1-1-2	連絡は本山寺務局へ
佐屋支院	4日・15日・24日	愛西市大井町浦田面29-6	0567-32-1-1825
一宮支院	8日・15日・25日	一宮市大江1-1-7-4	0586-72-1-7208
西春支院	2日・12日・22日	北名古屋市九之坪東ノ川20	0568-22-1-5813
岐阜支院	4日・22日	岐阜市切通7-1-15-1-22	0588-245-1-2939
笠松布教所	12日	岐阜県羽島郡笠松町八幡町23	0588-391-9733
大垣支院	2日・11日・21日	大垣市宝和町5	0584-78-1-4854
関支院	3日・15日・23日	関市西福野町2-1-15-11	0575-22-1-0776
平賀支院	8日・15日・22日	関市平賀2-1-3-1-2	0575-23-1-3771
郡上八幡支院	8日・22日	郡上市八幡町小野7-2-1-3	0575-65-1-3933
四日市支院	3日・14日・22日	四日市市赤堀2-1-4-7	0593-3552-1-3633
上野支院	2日・11日・21日	伊賀市上野向島町3-4-7-5	0595-21-1-0127

京都支院	1日・11日・20日	京都市上京区北横町360	☎(075)231-3437
高槻支院	11日・21日	高槻市天神町1-19-2	☎(072)685-11003
大阪支院	8日・23日	大阪市此花区西九条3-14-41	☎(06)6465-5051
和泉支院	7日・21日	大阪府泉南郡田尻町嘉祥寺404	☎(072)466-3112
神戸支院	14日・21日	神戸市兵庫区五宮19-17	☎(078)360-4884
淡路支院	5日・25日	南あわじ市神代国衙910	☎(079)42-0175
岡山支院	14日・23日	岡山市南区若葉町1-16	☎(086)262-0818
高知布教所	11日	高知市上町5-5-39	☎(088)823-11983
福山支院	8日・15日	福山市西町3-19-5	☎(084)921-3078
三原支院	14日・22日	三原市皆実2-9-22	☎(084)62-5087
安芸津支院	8日・15日・23日	東広島市安芸津町三津3765-13	☎(0846)45-4012
坂支院	15日	広島県安芸郡坂町坂東2-24-12	☎(082)885-11064
福岡支院	1日・15日	福岡市早良区城西2-11-37	☎(092)821-7975
壱岐布教所	13日・23日	壱岐市石田町池田東触1-1-2	☎(0920)44-5445
筑後布教所	8日・22日	筑後市大字西牟田5954-11	☎(0942)53-7273
天草布教所	2日	上天草市大矢野町維和1502-11	☎(0964)58-0742
田川支院	8日・22日	田川市春日町7-130	☎(0947)42-11819
名古屋地区	1日・7日・17日・27日	名古屋市昭和区駒方町3-13	☎(052)831-7135
瀬戸布教所	8日・19日・28日	瀬戸市東本町2-20	☎(0561)85-16860
龜岡布教所	8日・22日	龜岡市篠町篠牧73-1	☎(0771)251-7807

※スケジュールは変更されることがあります。詳しくは各支院・布教所にお問い合わせください。(掲載順不同)

第54回

青少年育成道場



お申込み締め切り
令和8年3月14日(土)まで

【日 時】令和8年3月29日(日)
午前7時30分～午後2時30分
【場 所】法音寺開山堂
【対 象】15歳～35歳
【持ち物】念珠・経本・筆記用具
【参加費】無料

【主なプログラム】

- ・山首上人さまご法話
- ・青年会員体験発表
- ・ディスカッション

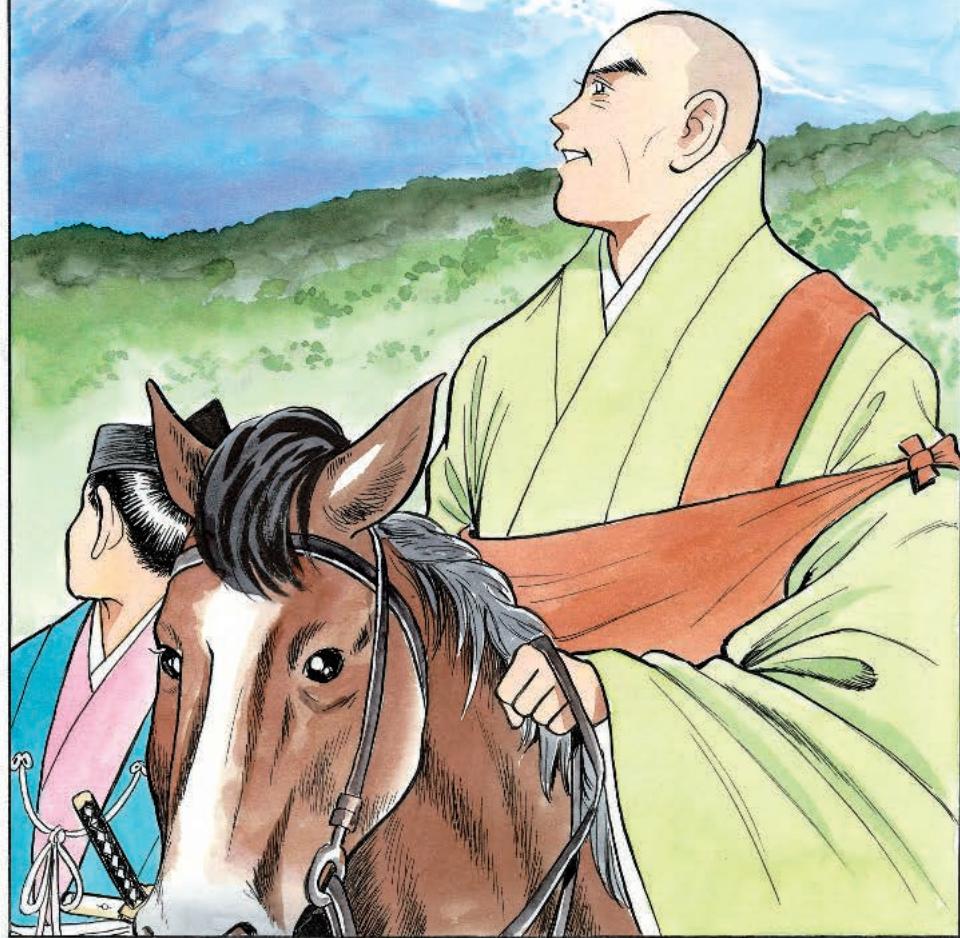


お申込み・お問い合わせ > 青少年育成委員会 (各支院/布教所まで)

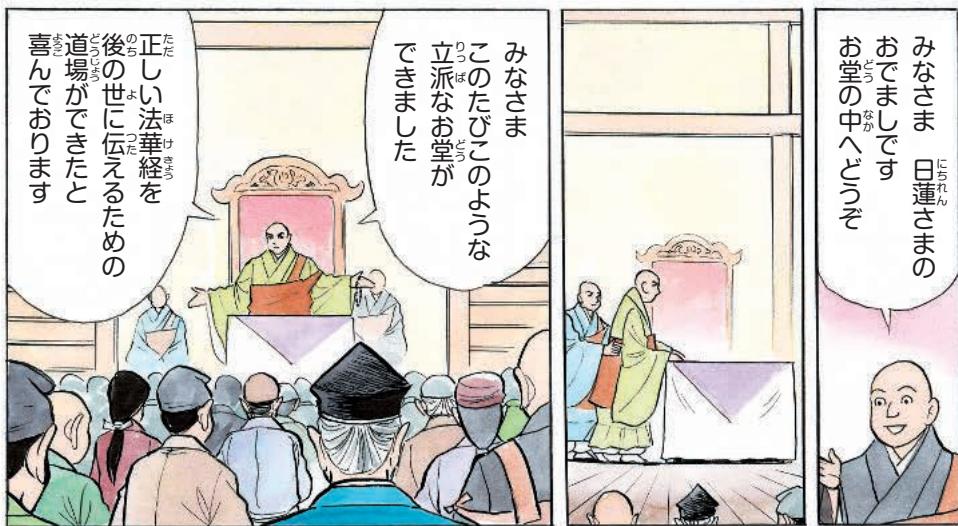
にちれん

日蓮さま

46 いけがみ
池上





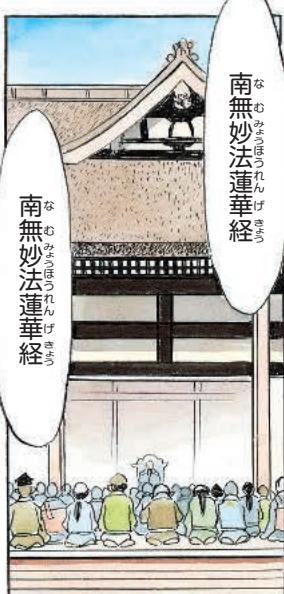


仏滅後二千一百一十五年の間
だれひとりとな
誰一人唱えるいとはありませんでした

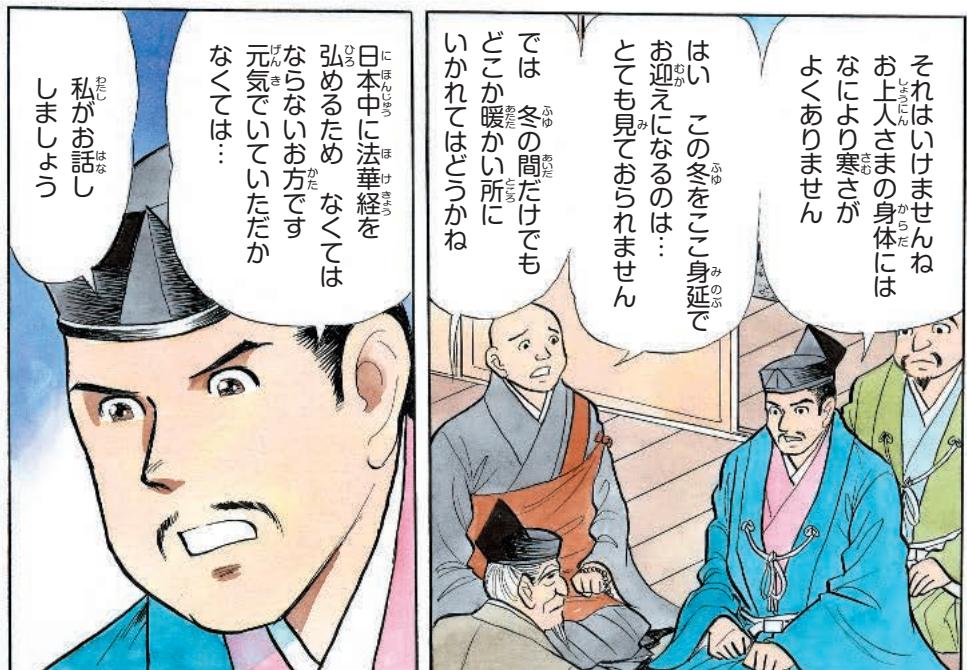
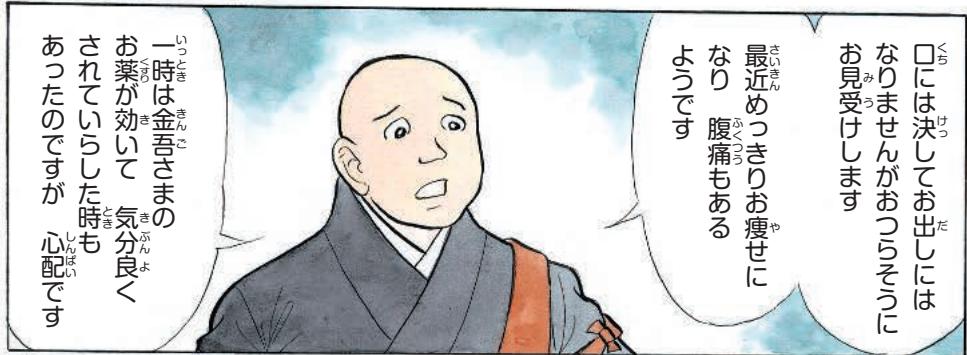
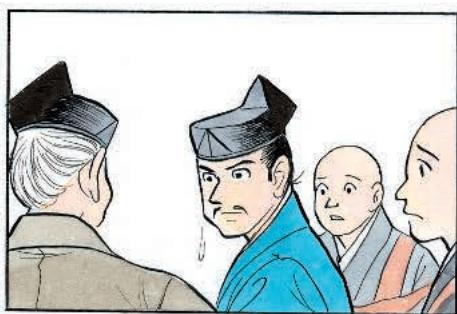
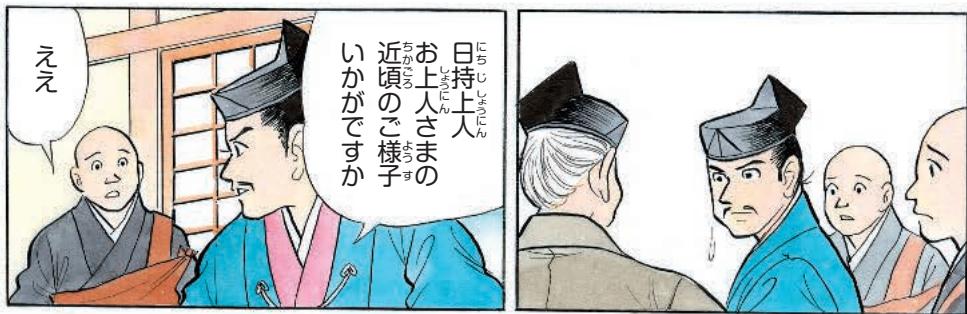
にわれたたひどりの
日蓮唯一人声の限りに
「南無妙法蓮華經」と
唱えてきたのです

に「南無妙法蓮華經」には
日本の一切衆生の眼を開く
功徳があるのです

皆さん実行を重ね
仏に成るという目標を持ち
しっかりと法華經を身に
染めていただきたいのです

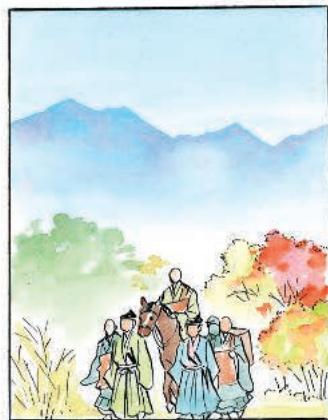








みんなは私の身体を
案じてくれている
のだな
ありがとう



まいと みじいと
じやせらまか

いま この富士の麓で
思い出されるのは
故郷のことだ

私の耳にいつも聞こえてくる
故郷安房の国の寄せは返す
波の音

高さも
美しい山
日本一ですね

父上と向かつた
清澄寺

道善房さまや
義淨さま
淨顕さま

美しい山
幼い頃
國から見た富士は
空に浮かんで見えた
あの美しい山の麓の
國はどんな所だろうかと
思つたものだ

こと
修行の妨げと
母上を
悲しませた

富士の姿も
これが見納めかも
しれぬ…

つづく

身延から池上へ

日蓮聖人が体調（胃腸系）の異変に初めて気づかれたのは、建治元年（1275）頃とされています。富木氏への手紙には、漢方薬を取り寄せたことなどが記されています。その後、薬の効能によって一時は快方に向かいましたが、快復と悪化を繰り返す状況が続きました。やがて病状は悪化し、弘安2年（1279）には食欲不振に陥ります。

それでも聖人はお弟子の方々に教書を著し、講義を重ねる日々を送り、養生に専念することはありました。人々は聖人の身を案じ、続々と身延に集まりました。四条金吾、比企能本、池上宗仲らは、鎌倉に出て名医の治療を受けること、あるいは湯治をするなどを熱心に勧めます。

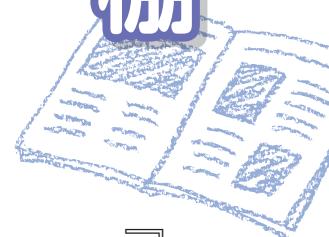
ついに日蓮聖人は決心し、弘安5年（1282）9月8日、南部実長から贈られた馬に乗つて身延を出発しました。富士山の北を回り、十日をかけて池上宗仲の館に向かわれたのです。



晩年の日蓮と弟子たち。
『自我偈絵抄続編』1818年（Wikipediaより）

お寺の本棚

『大白牛車・堪忍読本』



いやな人に出会つたら

ある会社にお勤めの若い女性ですが、隣の席に意地の悪い先輩がいて、「何かにつけて辛くあたるから会社を変わりたい」と言つてきました。そこで、「どうしても、というのなら仕方がないけど、そういう因縁が現れている時は、その因縁を消滅しながら変わるようになないと、また同じようなことが起きますよ」と言つておきました。

案の定、会社を変わってから「今度の会社では、隣の人はいいけど、向かいの人が意地悪をする。やはりおっしゃる通りでした」と言つてきました。

たしかにこの世の中、いやな人、意地の悪い人はいます。しかし、人に意地悪くされるような因縁があつたなら、逃げても必ずまた新たに、いやな人が現れてくるのです。

相手の人との因縁が悪ければ、それを善い因縁に変えていかなければなりません。それには何よりも、相手の人に喜んでいただけるようなことを実行していくのです。大きな堪忍がりますが、そうする以外に、問題を解決することはできません。

大白牛車
・堪忍読本



この本をもつと詳しく読んでみたい方は、法音寺本山、または各支院・布教所まで
お問い合わせください。

人に悪口を言われるのも、辛い目に遭うのも、自分が作った因縁です。作った因縁は必ず現れます。自分のしたことが怖いからどこか遠くへ逃げようと思つても、因縁はついていきます。地球の裏側まで行つても同じです。もつと言つと、あの世に行つてもついていきます。

肉体は滅びても魂は、過去・現在・未来とひと続きにつながる世界に生き続けます。私どもは天眼がないから見ることはできませんが、過去世にいつたい何をしてきたかわかりません。
「子どもが少しも言うことを聞かない」と嘆いている人は、きっと過去世に、自分が子どもで親を苦しめてきたのでしょうか。

『嫁が辛くあたる』というお姑さんは、過去世に自分が嫁の時、姑をいじめたという因縁があつたのでしょうか。

人ととの関係でどうしても理解できない因縁があつたとすれば、過去世に原因があると考へなければいけません。今の姿は、過去世に自分がしてきたことの現れです。今、受けているのは、過去世にやつてきたことです。決して、他人が持つて来て置いていった因縁ではありません。相手に腹を立て、憎むのは間違いです。

本の因縁が納得できますと、心が落ち着きます。心の落ち着く先がないと、対人関係はどうなつていくかわかりません。

常寂光土への誘い(43) — 妙法蓮華經略義・第一章序品(4)

三、爾の時に世尊、四衆に因縁せられ、供養・恭敬・尊重・讚歎せられて、諸の菩薩のため
に大乗經の無量義・教菩薩法・仏所護念と名くるを説きたもう。

世尊はこれらの人々に取り囲まれ、人々からご供養を受け、「世の中の人々を助けたい。み教えを世に弘めて一人でも多く帰依させたい」と願う菩薩達のために、大乗經の無量義・教菩薩法・仏所護念という法門をお説きになりました。

「四衆」については二通りの見方があります。一つは仏教々団を構成する比丘（男性の出家修行者）・比丘尼（女性の出家修行者）・優婆塞（男性の在家修行者）・優婆夷（女性の在家修行者）の四種の人々。もう一つは、仏さまの説法の座に列る人々で、次の四種に分類されています。

一、發起衆　＝　佛さまがみ教えを説くような機会を作る人々。

二、影響衆　＝　佛さまのみ教えを世に弘めることに努力する人々。

三、當機衆　＝　佛さまのみ教えを聞いてすぐ理解し、利益を受ける人々。

四、結縁衆　＝　佛さまのみ教えを聞いてもよくわからないけれど、何だかありがたく感じ、法を聞く縁がつながれて、ついには、自分の工夫でわかるようになつていく人々です。

「供養」とは、感謝の心から物などを捧げてその心を表すこと。「恭敬」は、うやまうこと。「尊重」は、たつとぶこと。「讚歎」は、讃め称えることです。

大乗經＝大乗は、大きな勝れた乗物のことです。乗物とは、人々を乗せて幸せな境涯に導く実践的な教えを言います。大乗佛教徒（教団）は「利他行」を柱に菩薩行を実行するのです。自己に囚われない大きな広い心からあらゆる善い行いが生まれるというみ教えを説くのが「菩薩の道」であります。

無量義＝言い尽くせないほど無量・無数・無限にある道理・教説＝義ということで、人を教え導くには、その場合・場合によつて説かなければなりませんから種々さまざまに涉るのであります。卷一・無量義經第二章説法品に「無量義とは一法より生ず」と言われていて、「この世に現れているあらゆる現象は千差万別であるが、それらは皆、縁起によつて存在していく、すべての教えもその現れは種々さまざまでも、もとを正せばただ一つの真理・法華經に行き着く」ということであります。又、「無量の義は一心より生ず」というようにも言われています。仏さまのお心に近い心になるに従つてみ教えがより深く理解でき、説くことができるというのです。即ち、心の根本を養わなければ「無量の義」は出でこないということであります。

教菩薩法＝菩薩の道を教える法で、一心即ち、心の根本を養えと言われますように、人々が皆具えている仮性（心の種）を養い育てて「仏の境界に到達するまで努力を止めるな」と「菩薩の道」を教えるのであります。

仏所護念＝仏さまが「どうかこの教えが滅びないように」と、大事に護つておられるみ教えであります。なお一つの意味は、「せつかく仏さまが大切に護つていらっしゃる法を、勝手な自分の判断で、そ

の価値を引き下ろすような説き方をしてはならない。下手なことをして法華經の目的・性質に悖るような弘め方をしてはならない。その時機を考え、その人の機根を整え、然る後に説くようにしなければならない」というようにもおっしゃっていますが、これは大切なことであります。

三、仏此の經を説き已つて、結跏趺坐し無量義処三昧に入つて身心動じたまわず。是の時に天より曼陀羅華・摩訶曼陀羅華・曼殊沙華・摩訶曼殊沙華を雨らして、仏の上及び諸の大衆に散じ、普仏世界六種に震動す。

仏さまは無量義の教えをお説きになつて「結跏趺坐」（仏坐像に見られるように、右足を左のものに、左足を右のものに置いた坐わり方）し、全神経を集中する三昧に入られました。

「無量義処三昧」＝仏さまが法華經を説くに先立つて入られた禪定のことと、実相三昧・無相三昧とも言います。無量義經第二章説法品では「無量義とは一法より生ず。其の一法とは即ち無相なり。是の如き無相は相なく、相ならず、相ならずして相なきを名けて実相とす」とあって「義処」は、その無量の義の依処たる実相を言い、この諸法の実相に心を専念することを無量義処三昧と言つています。

この時、天より白い蓮の華（曼陀羅華）、大きい白い蓮の華（曼珠沙華）、大きい紅の蓮の華が雨りました。又、すべての仏の世界＝全宇宙が六種に震動。天も地もござつて、悉く仏さまのみ教えの尊いことを認めて感謝の気持ちを表したのであります。

西爾の時に會中の比丘・比丘尼・優婆塞・優婆夷・天・龍・夜叉・乾闥婆・阿修羅・迦樓羅・緊那羅・摩睺羅伽・人・非人及び諸の小王・転輪聖王、是の諸の大衆未曾有なることを得て、歡喜し合掌して一心に仏を觀たてまつる。

その時、比丘・比丘尼・優婆塞・優婆夷、そして天・龍をはじめ人間だけでなく、およそ世の中に生存するあらゆる生命あるもの、さらに諸々の小王も、徳の高い王・転輪聖王も、そこに集まつてゐるすべてが未だかつてない感激を得、「これからいつたい何が説かれるのであろう」と非常に喜んで掌を合わせ、一心に仏さまを觀たてまつたのであります。

合掌することは「帰命」つまり、帰伏の心を表すことで、「南無」と唱えることと同じであります。この意義は三つあります。一は「信する」。二は「尊ぶ」。三は「頼る」であります。

〔妙法蓮華經略義 上巻・一〇頁〕

大阪支院主管 古山昭顕上人ご遷化



来臨影嚮 証知照鑑の御宝前において
清淨の大衆とともに一乗圓頓の法筵を
展べ 以て当山大阪支院主管 持誠院
日清上人 葬送の儀を厳修し奉る
夫れ惟みるに三明究竟の阿羅漢も寂
滅の炎に消え 十号円満の如来も涅槃
の烟に隠れ玉う 凡そ生をこの世に示
せるもの 誰か必滅を免ることを得
んや

去る1月4日、大阪支院主管・古山
昭顕上人がご遷化されました。享年84
歳、持誠院日清上人と申されます。心
よりご冥福をお祈り申し上げます。

歎徳文

本月本日 香華燈燭を嚴備し 道場
を莊嚴し 南無久遠実成大恩教主本師
釈迦牟尼仏 南無末法唱導師高祖日蓮
大菩薩 当山始祖広宣院殿安立大法尼
二祖弘教院殿宗玄大徳 御開山泰山院
日進上人 第二世顯修院日達上人等

茲に日清上人 世寿八十有四歳 法
薦二十四年を以て今生の一期とし 令
和八年一月四日 法体眠るが如く人界
婆娑を離れて安祥として化を他界に遷
さる 嘴呼哀しい哉 上人 その人と
なり 資性温厚にして柔軟 他に接す
るに常に慈愛を以てす 今歎徳一章を
草し 日清上人の行実の概要を叙して
その法功遺徳を歎揚し 以て上人の増
道損生に資し奉らんと欲す 襟わくは
上人の覚靈 道場に影現し 日教が誠
諦の語を納受あらせ給わんことを

状を案ずるに 上人昭和十八年一月
一日 父古山知三郎 母としの次男と
して宮城県白石市に生まる 昭和三十
三年 十五歳のおり故郷を後にし 大
阪にて縫製業を営む伯父 大阪支院總
代古山恵士氏のもとで修行をはじめる
昭和三十九年 二十一歳にして 独立
開業 昭和四十三年 縁あって 奥原
美代子女と結婚 二人の男子に恵まれ
る 昭和四十五年 二十七歳の時 伯
父恵士氏の勧めにより 大阪支院青年
会に入会 以後信仰いよいよ深まり
昭和六十一年 信教師を拝命 平成八
年には大阪支院副運営委員長となり
大阪支院の護持に尽力さる 因縁の逐
う所宿縁の薫発するところか平成十五
年一月十日 当山第二世顯修院日達上
人を戒師として剃髪得度 その幼名清
次を変じて昭顕と改める 平成十五年
日達上人の命により 開基堂の担任と
なり 後 平成二十四年には大阪支院

の主管となる

上人求道心堅固にして菩提心を退せず
法華經広宣流布に身命を捧げ 昼夜に玄題を高唱し 慈悲・至誠・堪忍の師訓を休し 行学二道の精進常に怠らず 支院においてはその維持発展に尽力す 上人生涯仏祖の誓願を一身に

体し 道心聊かも搖るがず 法燈燦然と輝く また上人の温顔に接する者心暖まざるは無し 然れば僧俗親疎上人の徳を慕い求道得益のもの少ならず僧房は常に唱題の声絶えることなし 然りと雖も仏天も遁れ難きは生者必滅の理 四聖も免れ難きは会者定離の習いなり 爰に十号の月の光も有為の雲に隠れ 六欲の花の色も転変の嵐に萎む 誰の人が滅せざらん 何れの処か常住ならんや

不肖日教 この度の上人の訃報に接し 哀惜痛恨の情禁ずる事能わず 本

日上人の葬送に当り満山の僧侶 檜信徒とともに法味妙音を捧げ 上人化導の一部を叙し 虔んで上人を無上涅槃の妙境に送り奉るものなり 仰ぎ願わ

くば上來勧請の仏陀諸尊 上人をして 増円妙道位隣大覺ならしめ給わんことを 南無妙法蓮華經

維時令和八年丙午一月八日

弔辞（進師法縁法音会）

古山昭顕上人。

大乗山法音寺第三世伝燈
廣顯院日教
稽首和南

は残つたものの、また元気に「ヤア」と声をかけてくださる日を楽しみにしておりました。ご遷化の報に接し、気力が抜けるような深い寂しさを覚えています。

昭顯上人と初めてお会いしたのは、昭和45年春、大阪広宣寺の事務所でした。「青年会に入会する」というお話

で、「私も一緒。二人同時入会。同期やね」と握手したことを、今も鮮明に覚えております。その後、昭顯上人は寺のご奉仕や三徳宣布に尽力され、大阪支院の副運営委員長も務められました。節分会で着用する袴の製作では中

心となり、多くの袴を完成させられました。平成15年に得度され、開基堂担任として赴任された折には、御開山上のおそばにあつて、参詣に来られる方々のお世話をすることを心から喜んでおられました。

大阪支院に赴任されてから、淡路支院の講日講師をお願いした際には、一台の車でご一緒し、リラックスしたドライブのような時間を過ごしました。

最初の帰り道、明石海峡大橋の真ん中あたりを走っていた時、真正面の空に花火が上がり、その美しさと絶妙なタイミングに、二人で感激したことが忘れられません。

その後も何度もドライブをご一緒に、子どもの頃の思い出や不思議な体験など、さまざまなお話を聞かせていただきました。

その一つに、開基堂担任の頃、「特発性間質性肺炎」という指定難病を発症して入院し、余命宣告を受けたことがありました。法音寺先師・山首上人さまのご守護、そして周囲の皆さまの徳積みにより病が寛解し、退院して通院となつたこと。その後、大阪支院の主管者として大阪に移られ、大阪の病院に変わってからも、ほとんど問題なく元気に過ごしていると話しておられました。私は、仏さまからいただいた使命の不思議さに深く感じ入つたものです。

講日で倒れられた日から二年三ヵ月。この間、ご長男は山首上人さまのもと

で得度され正英上人となられ、次男さんは昭徳会で元気に働かれ、ご一家の御法のご縁の深さを感じております。

古山昭顕上人。

山首上人さまからいただいた大きく尊いお役目を、見事にやり遂げられましたことをどうか御開山上人、日達上人にお報告ください。

お上人の増円妙道を、心よりお祈り申し上げます。

令和8年1月8日

進師法縁法音会

田中 常行

弔辞（檀信徒代表）

お上人が僧侶となられ最初の赴任地

は、新設されたばかりの開基堂でした。

その時お庫裡さまが腕を骨折されてい

て、なかなか動きが取りにくく状態で

ました。いつも「どうですか？」と、おつしやいます。

「どうですか？」の

中身は、「元気ですか？徳積みはでき

ていますか？消滅できましたか？」な

どで、やさしく話も聞いてくださいま

す。ご年輩の方や体調の悪い方には「お

神通を掛けましょう」と温かく接し、

いました。初めての場所でご苦労が多かつたかもしませんが、3年ごとに支院の皆さんと参詣させていただきました。お二人はいつも温かく迎えてくださいました。長谷川常覚上人をお送りした後、古山昭顕上人は主管者として戻ってきてくださいました。青年会の頃から一緒に活動させていただいた者としては、懐かしく、心強く、しっかりとお支えしようと心から思いました。気持ちを同じくする友が大勢いましたので、お上人もすぐに馴染んでいただけ、ご体調があまり良くない中でもお寺の仕事の活動を開始してくださいました。

お寺におうかがいすると、お上人はいつもやさしい笑顔で迎えてくださいました。いつも「どうですか？」と、おつしやいます。「どうですか？」の時間をおかけたら」と申し上げたところ、日達上人さまは「名古屋にも良いお医者さんがいるから、すぐに二人で赴任地へ行きなさい」と、おっしゃ

心を落ち着けてくださります。多くの人達が安心して、お上人のお話をお聞きしてお尋ねになります。ある人など、お寺で用を済ませて帰ろうとすると、お上人はいつも「家まで送つてあげましょう」とおっしゃいます。「いえいえ、バスで帰ります」と言つても送つてくださいます。帰りの車の中で、お上人は「あなたが、いつもお寺の人を送つていたのを知っています。これからは、私にもその徳積みを分けてもらいます」とやさしく微笑んで言わされました。日蓮聖人は『不輕菩薩は所見の人の中の仏身を見る』と言わされました。この世の中には自分の好きな人、嫌いな人がいますが、どんな人に対してもその仏性を認めることができれば、世の中上手くいくことを実践してこられました。

お上人は「法華経は親孝行の教えです」とお話しくださいました。お上人ご自身が若い時にご父母のもとから旅立つて大阪へ来られました。その時、ご両親への切ない思いがおありだった

のでしょう。『案山子』という歌の「元気でいるか お金はあるか 友達できたか……」子を思う親の心を何度も話してくださいました。お上人はいつもやさしくお尋ねになります。最初に言わされました「死ぬまで親は子どものことを見つけていた」と。今頃はご両親と楽しい会話をされているのですか?また、三先師・日達上人さまから、おほめのお言葉をいただいておられるのかな?

最後になりましたが、青年会時代の呼び名を言わせていただきます。

「古さんありがとう」

これで、お上人ともお別れです。本当にありがとうございました。

令和八年一月八日

大阪支院 檀信徒代表 井上信幸

一緒させていただき、淨心道場入行も同期ということもあって、大阪支院の主管者として帰つてこられて親しく感じていました。お上人はいつもやさしく見守つてくださいました。お正月に家族揃つてご挨拶におうかがいすると、ニコニコと迎えてください励ましてくださいました。写経会では友人とご挨拶に行くと、友人に親しく声をかけてください勇気をくださいました。無理なお願いに行つた時も快く受けください、いつも私達の力になつてくださいました。私も周りの人達の力になれるように精進していきたいと思います。○主人の介護に心が折れる日々を過ごしていたある日のこと、お上人より「一番大変なのはご主人ですよ。ご主人の心を和らげるよう、喜ばせてあげてください」と、ご教化いただきました。やつと主人が車いすでお参りできた春の日のこと。お上人は走り寄り、主人の動かない手を擦りながら「大変だつたね」と、優しく話しかけてくださいました。花が好きだった主人に境内の桜の花を

○古山昭顕上人とは青年会時代からご
檀信徒の声

一枝折り、主人の手に持たせてくださいました。その時の主人の笑顔が忘れません。家族を愛し大切にする心、思いやりの心、誠の心をお教えいただきました。ありがとうございました。

○お寺に行くことが大好きな両親でした。

た。お寺に行く度、お上人にお神通を

掛けていただき、いつもうれしそうに

していました。ある日、私が主人の病

院にいる時、高齢の母から「お父さん

が見当たらない」と電話があり、私は

びっくりしてすぐにお寺に電話で、あ

ちこちさまよわないので、「両親の足

止めのお徳」をお願いし慌てて家に向

かいました。するとお上人はお庫裡さ

まとお二人、我が家の近所を車でぐる

ぐる回つて一緒に探してくださつてい

たのです。お陰さまで、父は転倒して

少し眼鏡を傷つけてはいましたが、無

事に発見することができました。お上

人の優しさに心の底から感謝いたしま

ださり、お庫裡さまが「お上人が送りますので」とお声をかけてくださいました。車の中で気さくな日常会話をされる時の笑顔が、とても印象に残っています。

お上人ありがとうございました。

(通信員 坂井信子)

した。

◇2～3人の奉仕で、お寺からの帰りが遅くなつた時は黙つて車を出してく



関支院 幅元運営委員長ご逝去

長年にわたり運営委員長を務められた幅昭夫氏（現・副運営委員長）が、12月16日逝去されました。享年88歳でした。葬儀は12月19日に営まれ、大勢の方が参列し、別れを惜しました。

幅氏は、真面目で人に頼まされたら何事も断らないお人柄で、多くの方に親しまれていました。定年退職後は、奥さまとともに自転車店を営みながら、組合の支部長、地域の役、お寺の役などを務められました。昨年5月には、日本自転車商協同組合連合会より表彰を受けたばかりでした。

お寺の行事や講日の手伝い、団参バースの運転手も務めてくださいり、また吉橋宗敬上人の運転手としても多くの寺院行事に同行されました。

11月29日にも、支院へ車で『法音』を取りに来られ、配布してくださいました。

もともと心臓のご病気で通院されて

いましたが、12月1日に急に体調を崩され入院し、16日正午にご逝去されました。亡くなる一時間前には少し会話もでき、「また来るでね」と声をかけると、「ありがとう。ありがとう」と応じられたとのことです。

お元気なご様子だつただけに、皆さんが大変驚かれました。幅さんは山盛りの散華とお題目に囲まれ、多くの方に見送られて旅立たれました。

（通信員 幅梅子 代 後藤千代美）

支院だより掲載写真は、それぞれ関係者より提供されたものです。



ひろばの 福祉



法音寺の社会福祉・教育事業

社会福祉法人 昭徳会

徳を昭(あき)らかにし、徳を以って世間を照らす

- 児童養護施設
- 障がい者支援施設
- 障がい福祉サービス事業
- 軽費老人ホーム
- 軽費老人ホーム(特定施設入居者生活介護事業)
- 自立援助ホーム
- 障がい児入所施設
- 特別養護老人ホーム
- 養護老人ホーム
- 保育所

〈法人本部〉

〒466-0832

愛知県名古屋市昭和区駒方町4-10

TEL (052) 831-5171

<https://www.syoutokukai.or.jp>



学校法人 日本福祉大学

我が如く等しくして異なること無からしめんと欲す

- 日本福祉大学大学院
- 日本福祉大学
- 日本福祉大学中央福祉専門学校
- 日本福祉大学付属高等学校

〈法人本部〉

〒470-3295

愛知県知多郡美浜町奥田会下前35-6

TEL (0569) 87-2211

<https://www.n-fukushi.ac.jp>



幸せのお手伝い

～小さな行動も
大きな一步～

退所児童Aさんの言葉

児童養護施設名古屋養育院で勤務して十年以上が過ぎました。子じも達との関わりは毎日が驚きの連続で、出勤するたびに子じも達と一緒に笑ったり、怒ったり、悲しんだりしている間にあつといつ間に十年が過ぎ去ってきました。

入職して5年を過ぎた頃のお話です。施設を退所した児童のアフターケアを行う自立支援担当職員となり、私はAさんのアフターケアをすることになりました。

Aさんは中学3年生の時から関わっており、

高校3年生での進路選択、退所後の住まい探しなどを一緒に行いました。Aさんは物事を決めることが苦手で、本音を話しにくい子でしたが、貯金が上手な僕約家で、退所後は毎日自炊し、会社にもしつかりと出勤する真面目な子でした。そんなAさんから相談があったのは退所して一年半ほど経った時です。会社で上手く人間関係を築けず、退職を考えていたようでした。たくさん話を聞きましたが、最終的にはAさんの判断で退職することになりました。

Aさんは県外の会社で働いていたので、退職を機に名古屋に戻り、どんな家が良いか、何件も一

緒に見学しました。その帰り道、たまたまある大きい病院の近くを通りかかったところ、Aさんが「いまお母さんがここに入院している」と言いました。Aさんは保護者との関係不調で施設に入所しており、お母さまとの関係も稀薄でしたが、かすかにつながっていたラインを通じて入院していることを知っていました。私は、その話を聞き、何気なく「お見舞いに寄つていいく？」と提案しました。Aさんは「自分が来ても嫌がられるかも」と話していましたが、大きな病気で入院されているようだったので「顔を見てくるだけでも」と病院に送り届けました。Aさんはお見舞いをきっかけにお母さまとの関係が良好になり、アパートや保証人の相談を行い、新しい住まいを決めました。その後、コロナ禍もありAさんと関わることはありませんでしたが、数年前に京都土産を持つて来院したAさんが他職員に対し、「あの時、病院

に寄つてくれたお陰で母と仲良くなれた」と、とてもうれしそうに話していたと聞き、自分の小さな行動がAさんの人生においては大きな意味があったのだと気づかされました。

『ささいな行動が、後に大きな意味を持つ可能性もあるので、より一層丁寧な支援を心掛けなくてはいけない』との教訓になりました。今後も子ども達のより良い未来のために精進していきたいと感じます。

名古屋養育院 自立支援担当職員 松岡 由貴



新年祝祷会における昭徳会ブース出店報告



写真提供・昭徳会

今年度の取り組みの大きな特徴は、運営体制の充実にあります。昭徳会の職員にも法音寺の活動を肌で感じてほしいと考え、三法人連携室や福祉セミナー等実行委員会のメンバーも運営に加わりました。現場に立った職員からは、「これほど大勢の方が参拝に来られるのかと驚きました」「皆さまの笑顔にふれることができ、非常に楽しかった」といった感想が寄せられました。参拝者の皆さまと直接言葉を交わす経験は、職員が自らの仕事と地域とのつながり

令和8年の輝かしい新春を迎え、法音寺にて執り行われました新年祝祷会において、社会福祉法人昭徳会の特設ブースを出店いたしました。この取り組みは、法音寺を参拝される皆さまに、昭徳会の社会福祉事業をより深く知っていただきたいとの願いから始まったものです。これまで、法音寺のさまざまな行事でブースを設けておりますが、これは単なる物品販売の場ではなく、法音寺・日本福祉大学・昭徳会の「三法人連携」をより強固なものにするための大切な活動でもあります。

りを再確認する貴重な機会となりました。

1月1日から3日までの三日間、障がい分野の三

施設が丹精込めて作り上げた製品を販売させていただきました。小原寮

からは、農福連携の結実として収穫したお米「おばらいす」が登場。泰山寮は、小原寮制作の陶器を鉢に再活用した「多肉植物」を販売しました。そして、授産所高浜安立からは「ぱりまるたません」や新春恒例の「福袋」が並び、



連日多くの皆さままで賑わいました。会場では、「小原のお米は以前食べておいしかった」「毎年、福袋を楽しみにしています」といった温かいお声をいただきました。リピーターの方が年々増えていることを実感し、販売担当職員一同、大きな励みとなりました。

これまでの活動を通じ、初代理事長・鈴木修学先生の精神を受け継ぎ、昭徳会が幅広い支援を行っていることが徐々に周知されていると実感しております。一方で、現在の昭徳会ベースの出店が障がい分野中心であるという課題も見えてきました。

来年度以降は、児童や高齢者など他分野についても広く紹介し、より包括的に魅力を発信できるよう取り組んでいきたいと思います。

法音寺、日本福祉大学、そして昭徳会。この三法人が手を取り合い、それぞれの専門性を活かして、より良い社会（福祉）の実現に向けて歩みを進めてまいります。

社会福祉法人昭徳会 三法人連携室 室長 纔纔 純司

国際学部「チャリティマルシェ」を開催しました！

「日本福祉大学 国際学部」

12月17日（水）、国際学部の学生達が「チャリティマルシェ」を開催しました。

このイベントは、学生自身が世界

について考え

たり発信する

機会を作り、

さらには支援

が必要な地域

に向けて楽し

く寄付を集め

るためのチャ



リティイベントです。

マルシェでは、カンボジアの伝統的な雑貨

や香辛料の販売があつたり、輪投げなどのミ

ニゲームや飲食コーナーも設けられました。

飲食コーナーでは学生達が、ネパール餃子「モ

モ」などを蒸したり、熱々のネパールのチャ

イやスリランカ紅茶を提供するなど、それぞ

れが仕事を分担して準備し、大忙しな日とな

りました。

そのほか、教員が育てた植木の販売や、留

学生が11月にりんご狩りで訪れた長野県宮田村の中学生がつくった紙バッグの委託販売も

行われるなど、さまざまなもののが幅広く売られるおもしろいマルシェになりました。

来場者からは「モモを初めて食べた！」「辛いけどおいしい」「チャイのスパイスが効いて暑くなってきた」といった声が上がり、おい

いしい国際交流も行われました。そこで、それの商品の背景にある文化について、学生が直接説明する場面も見られ、母国のみを再現しよ



うと奮闘する留学生達の姿が印象的でした。

今回のマル

シェでの売り上げは、全額カンボジア支援およびスリランカのサイクロン被災地へ寄付されます。今後もこのような楽しいイベントを通して、世界のことを考える機会を作っていきたいと思います。



幸せの種まき

いつもどこかに
「ありがたい」と
思えるものを
見つけられる人は
幸せな人です

いつも不満ばかりが
頭に浮かぶ人は
不幸な人です

大乗山 法音寺

編集後記



私達は誰もが「幸せでありたい」と願います。自分や家族が健康であること、職場や地域社会で役割を果たせること、暮らしに不安がないこと。

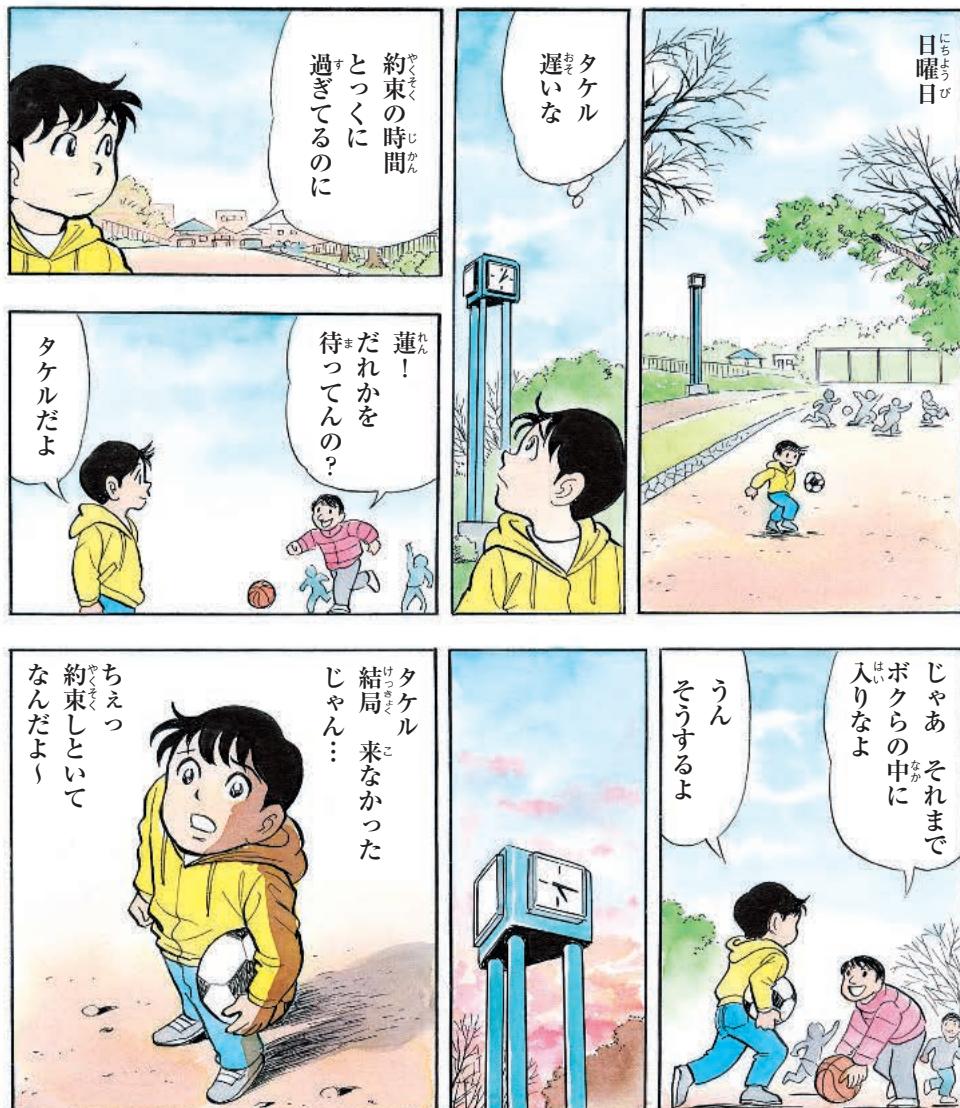
ところが現実には、病や人間関係の悩み、生活の苦勞など、思うようにならないことばかり。社会情勢や環境の変化も重なり、将来への不安は尽きません。複雑な社会に生きる私達は、日々悩みを抱えますが、これは現代特有ではなく、古来より人間社会が抱えてきた普遍的な課題です。その苦しみから解放され、真の幸せを願う人々が日々お寺を訪れます。

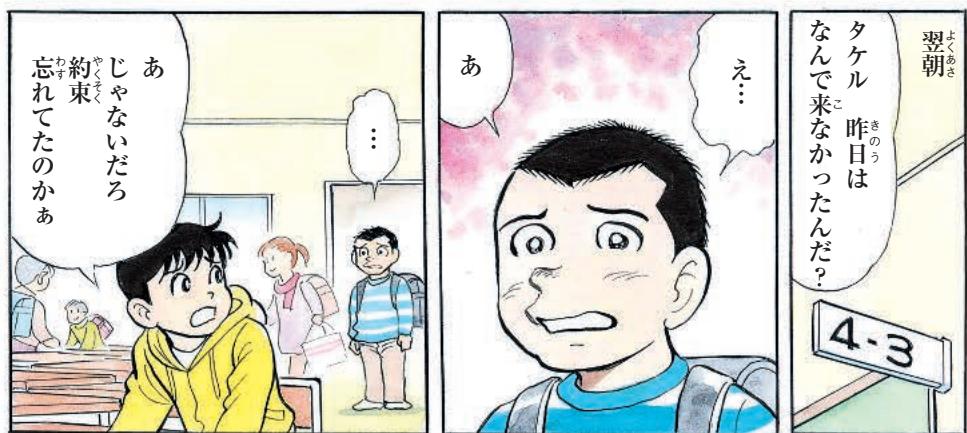
杉山辰子先生は「宗教に詳しくても、それだけでは地図を知っているに過ぎない」と説かれました。また村上斎先生は「いかに経文がありがたくても、実行しなければ何にもならない」と教えられています。御開山上人は「法華経は誰もが本当の幸せを得られる教えである」とおっしゃいました。そして日達上人は「生きている間にしか徳は積めない」という教えを遺されました。

先師の遺されたメッセージにこそ、私達が進むべき活路があります。一人でも多くの方がその教えにふれ、ともに幸せを感じられるようになれば、これほどすばらしいことはありません。

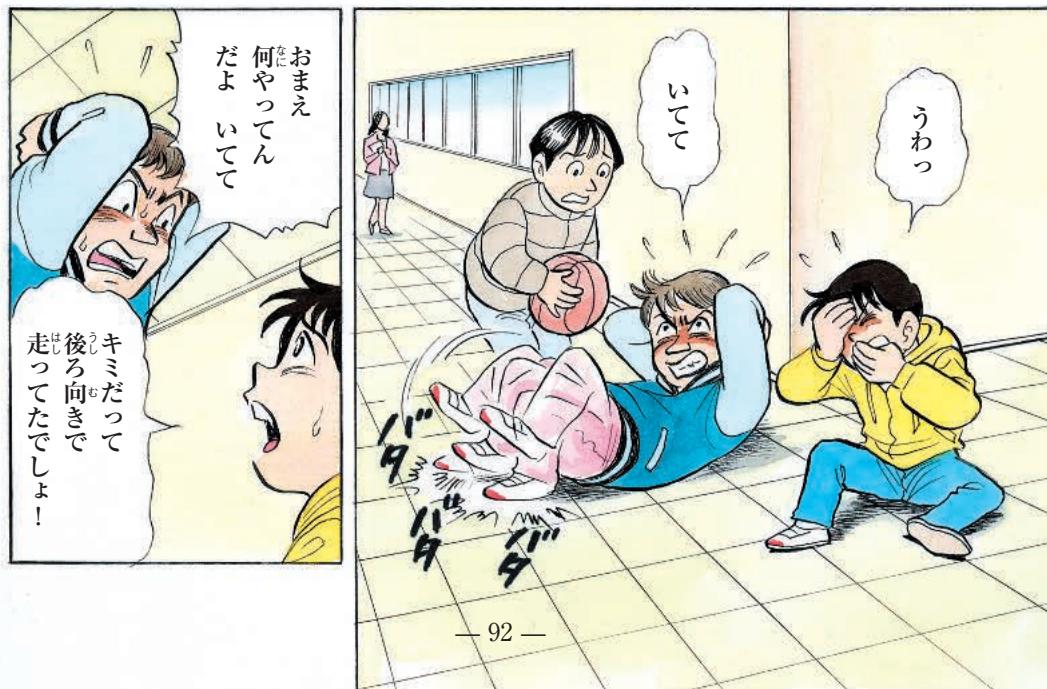
見えなかった気持ち

竹中 淳

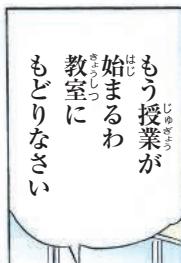


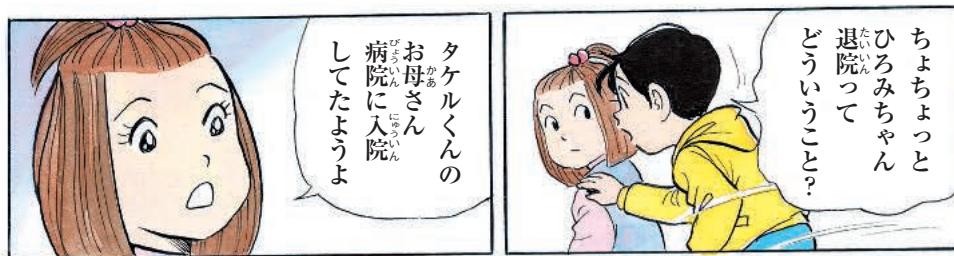














ボク 自分のこと
だけ考へてたから
タケルがよく
見えなかつた



社会福祉という言葉がなかった時代…
人々を本当の幸せにする仏教の精神で
社会的弱者を救済する人達がいました。

法音寺物語



お寺になったのは戦後（昭和22年）のこと。
初代住職・鈴木修学上人は、福祉施設を
運営する中で、本当に人々を救済するには
“専門的知識を身につけた人材が必要”と
考え、日本初となる社会福祉教育専門の
4年制大学・日本福祉大学を開設しました。



貧困にあえぐ人達に食料や医療を施し、
差別を受けたハンセン病を患った人々に
寄り添い、様々な事情で親をなくした
子ども達を養育し、障がいを持つ人々に
生きる希望を与えてきました。



その後、“仏さまの教えを実行し、困っている人達を
救済しよう”という理念に共鳴する人達が各地に
増え、全国に40の支院・布教所が設置されました。
多くの心ある人達の善意に支えられて、現在では、
高齢・障がい・児童の19福祉施設が運営され、
大学では多くの学生が社会福祉を学んでいます。



◎ SNSでつながる法音寺 ◎

法音寺公式
Facebookで
毎朝7時
『一日一言』
配信中!!

こちらの
二次元コードから
ご覧いただけます。



毎週火曜日
法音寺メールマガジン
配信中!!

山首上人のみ教えや毎月の予定、
人にやさしく生きていくための
コツなどを配信します。

こちらの二次元コードから
メールマガジン登録フォームを
ご覧いただけます。



YouTubeにて
法音寺チャンネル
開設中!!

[https://www.youtube.com/
user/houonjimovie](https://www.youtube.com/user/houonjimovie)

こちらの
二次元コードから
法音寺紹介動画を
ご覧いただけます。



詳しくはホームページ、またはYouTubeサイトで

法音寺

検索



水仙

悦可衆心

相手を満足させれば
すぐ喜びがくる
相手をいたわれば
喜び合う日が必ずくる

日蓮宗 大乗山

法音寺

〒466-0832
名古屋市昭和区駒方町3-3
TEL. 052-831-7135
FAX. 052-831-9801
<https://www.houonji.com>



ホームページは
こちらから

講 話 日

毎月 7日・17日・27日 午後1時30分

交通案内・アクセス

■地下鉄鶴舞線
川名駅 3番出口より徒歩5分
いりなか駅 2番出口より
徒歩7分

■名古屋市営バス
山中 停留所より徒歩3分

法音・令和8年2月号・No.676・令和8年2月1日発行

発行所：日蓮宗法音寺／制作：法音寺広報委員会

非売品／印刷・(株)一誠社